



どうし 動詞の連用形「～(ながら／たい)」



どうし きほんこうぞう
P39 動詞の基本構造を
参照しながら進めてください。

この課では「食べ(ながら)」「歌い(ながら)」「行き(ながら)」や「食べ(たい)」「歌い(たい)」「行き(たい)」など、後ろに「～ガチャナ(ながら)」や「～ブシャン(たい)」などが続く動詞の形(連用形)を学びます。

ポイント



どうし
動詞の連用形「～(ながら／たい)」は、どうし ごき がた 動詞の語基B型に、ごびせつじ 連用形の語尾接辞 -i¹ を付ける。

1. 連用形

せつじ ごき がた せつぞく
連用形の接辞 -i は、語基B型に接続します。

ごき がた ちが
語基B型については、西部方言と東部方言で違いがあることが分かっているので、ここでは分けて説明します。それぞれの方言の中でも地域差があるかもしれないので、西部方言は代表として上平川方言、
くんじゃいむに
東部方言は国頭方言を例にして説明します。

ひょーむに 1-1 上平川方言(西部方言)

ひょーむに ごき がた ごき がた きほん ちが ごき がた きほん
上平川方言では、語基B型が語基A型(基本形)と違うのは、語基A型(基本形)がnyで終わる *siny*² 「死ぬ」の語だけです。表1を見てください。⑥語基A型が「ny」で終わる語(例：*siny*「死ぬ：A型」)は、
ごき がた がた
語基B型では「n」で終わる形、すなわち *sin* 「死ぬ：B型」という形になります。

¹ - は接辞のマークです。

² 語根だけの形を、ななめ文字で表します。語根だけでは単語は成り立ちません。



表1. 語基の末尾音の変化(上平川方言)

語基の末尾	① ぼいん 母音 終わり	② s 終わり	③ k 終わり	④ t 終わり	⑤ g 終わり	⑥ n 終わり	⑦ m 終わり	⑧ b 終わり
例	abi 「呼ぶ」	nas 「産む」	hak 「書く」	mat 「待つ」	uig 「泳ぐ」	sin 「死ぬ」	kam 「食べる」	asjib 「遊ぶ」
語基 A (基本形)	ぼいん 母音	s	k	t	g	ny	m	b
語基 B	ぼいん 母音	s	k	t	g	n	m	b
語基 C	ぼいん 母音 t	ch	ch	ch	j	j	d	d

さて、連用形は、動詞の語基B型に接続するので、*siny*「死ぬ」の連用形は、語基B型 *sin* に連用形の接辞 *-i* が付いて *sin-i*「死に」となります。

1-2 国頭方言(東部方言)

東部方言は、歴史的に *ki* → *chi* (キ → チ)、*gi* → *zi* (ギ → ジ) 音の変化がある(1-2「しまむにの地域差」を参照)ので、西部側より少しだけ変化が多くなります。

表2を見てください。③語基A型が *k* で終わる語(例:*hak*「書く:A型」) ④語基A型が *t* で終わる語(例:*mat*「待つ:A型」)は、語基B型では *c* で終わる形、すなわち *mac*「待つ:B型」や *hac*「書く:B型」のような形となります。⑤語基A型が *g* で終わる語(例:*uig*「泳ぐ:A型」)は、語基B型では *z* で終わる形、すなわち *uiz*「泳ぐ:B型」のような形になります。

表2. 語基の末尾音の変化(国頭方言)

語基の末尾	① ぼいん 母音 終わり	② s 終わり	③ k 終わり	④ t 終わり	⑤ g 終わり	⑥ n 終わり	⑦ m 終わり	⑧ b 終わり
例	abi 「呼ぶ」	nas 「産む」	hak 「書く」	mat 「待つ」	uig 「泳ぐ」	sin 「死ぬ」	kam 「食べる」	asjib 「遊ぶ」
語基 A (基本形)	ぼいん 母音	s	k	t	g	n	m	b
語基 B	ぼいん 母音	s	c	c	z	n	m	b
語基 C	ぼいん 母音 t	ch	ch	ch	j	j	d	d



さて、連用形は、動詞の語基B型に接続するので、**hak**「書く」の連用形は、語基B型 **hak** に連用形の接辞 **-i** が付いて **hak-i**³「書き」となります。**mat**「待つ」の連用形は、語基B型 **mac** に連用形の接辞 **-i** が付いて **mac-i**「待ち」となります。**uig**「泳ぐ」の連用形は、語基B型 **uiz** に連用形の接辞 **-i** が付いて **uiz-i**⁴「泳ぎ」となります。

発音してみよう！

連用形は、様々な語と続けて使われます。ここでは「～ブشان(～たい)」という形と続けて発音してみましょう。2段ある場合、上の段が上平川方言(西部方言)、下の段が国頭方言(東部方言)を表しています。

あ び ぶ しゃ ん
abi -i bushan
呼ぶ-連用 たい

よ
「呼びたい」

な し ぶ しゃ ん
nas -i bushan
産む-連用 たい

「産みたい」

し に ぶ しゃ ん
sin -i bushan
死ぬ-連用 たい

「死にたい」

は き ぶ しゃ ん
hak -i bushan
は ち ぶ しゃ ん
hac -i bushan
書く-連用 たい

「書きたい」

ま て い ぶ しゃ ん
mat -i bushan
ま ち ぶ しゃ ん
mac -i bushan
待つ-連用 たい

「待ちたい」

う い ぎ ぶ しゃ ん
uig -i bushan
う い じ ぶ しゃ ん
uiz -i bushan
泳ぐ-連用 たい

「泳ぎたい」

か み ぶ しゃ ん
kam -i bushan
食べる-連用 たい

「食べたい」

あ し び ぶ しゃ ん
asib -i bushan
遊ぶ-連用 たい

「遊びたい」

3 ci = chi「チ」と読んでください。

4 zi = ji「ジ」と読んでください。

練習問題

どうし
次の動詞の連用形を予想して書いてみましょう。

(1) *nibu* 「眠^{ねむ}る」 → () 「眠^{ねむ}り(たい)」

(2) *furus* 「殺^{ころ}す」 → () 「殺^{ころ}し(たい)」

(3) *ak* 「歩^あく」 → () 「歩^あき(たい)」

(4) *tat* 「立^たつ」 → () 「立^たち(たい)」

(5) *fug*⁵ 「(船を)こぐ」 → () 「(船を)こぎ(たい)」

(6) *num* 「飲^のむ」 → () 「飲^のみ(たい)」

(7) *tub* 「飛^とぶ」 → () 「飛^とび(たい)」

⁵ fuig, fuugという地域もあるようです。

